

## 2019年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	生活科学部・現代生活学科	氏名	須賀 由紀子
----	--------------	----	--------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

地域自立社会づくりという問題意識のもと、地域福祉、コミュニティとケアの思想、および連動する社会教育、社会包摂性の高いアートプロジェクトの新しい動向を調査し、本研究の現代的意義を捉え、新たな多世代交流ツールとプログラムの開発を行った。

#### <文献研究>

地域福祉および社会教育の分野において検討されている地域共生社会への問題意識について文献を集め、検討を行った。また、地域福祉学会、世代間交流学会の学会誌のレビュー、最新の学会発表のサーチを行い、学会における地域福祉コミュニティ形成に関する現状の認識と課題の動向、また世代間交流に関する研究の動向について調査した。調査を踏まえた考察を、生活科学部紀要にまとめた。（須賀由紀子、地域共生社会と自立した地域づくり、生活科学部紀要(57), 79-89, 2020）

#### <地域共生社会の現場の動向調査>

日野市地域包括支援センター多摩川苑、日野市中央公民館職員に、地域福祉、社会教育の現状と課題について、現場の問題意識について把握するためのインタビューを行った。

#### <アートによる地域づくりと社会包摂に関する最新の動向調査>

地域活性化とアート・デザインの関係性について、共同研究者の下山肇准教授が、瀬戸内国際芸術祭 2019 の動向の調査研究を行った。

#### <研究会>

本研究の共同研究者である細江容子教授、井口眞美准教授、下山肇准教授、大澤朋子専任講師と研究会を行い、各専門領域の観点から本研究の意義・視点を討議する研究会を複数回開いた。世代間交流の視点から、多世代交流カルタの意義と可能性についてのサーチを行った。

#### <活用プログラムの開発>（井口、下山、須賀）

・先行事例として、対話型鑑賞「ミテ・ハナソウ」アートカードセット（NPO 芸術資源開発機構（ARDA））開発を比較検討した。

・「多世代交流かるた」のうち、「こどもかるた」について、サンプル製作を富士ゼロックス価値創造コンサルティング部との連携で行い、「仮製品版」の製作を行い、プログラム実践を行った（かるたとり&見立ての創作遊び）（8/20、2/11 学生が参与）。その研究成果について、日本保育学会で発表した（須賀由紀子・井口眞美、創作の喜びを引き出す地域交流プログラム、日本保育学会第73回大会、2000）。

・新たな「多世代交流かるた」として、昭和時代のまちの風景や生活用具の思い出写真から、共想法による言葉出しを行い、学生が感じた「高齢者の思い」を言葉にする文字札・絵札の作成という方法を考案し、作品化した。この方法による多世代交流の効果検証に着手した。